

## (うち、アホやから)



「うち、アホやから、あたま、ようないから」

この言葉を聞くと、背中がぞくぞくするくらいかわいらしくて、愛おしくなります。

男の身勝手、支配欲の権化、と言うなかれ！です。

僕も時々人前で「俺、アホだから」などと言うことがあります。

人前では時々ですが、自分一人では、しょっちゅう「いつまで経っても賢くならんなあ」とか「ほんと、バカ、バカ。いつになったら直るんだ、この馬鹿さ加減」などつぶやいている自分に気づくことがあります。

堂々巡り、同じ過ちの繰り返し、いつしか有頂天の傲岸不遜などに思い当たって、思わずため息、思わず赤面。自分にとっては、結構日常ありふれた用語です。

それというもの、というか、そんな風に思ってしまう、今ひとつ持てない自信のなさは、人生のかなり長い期間クズ扱いもされ、自分も自身をクズな奴としか思えない時期が相当続いていたからかもしれません。

しかし、そういえば最近、自分のことを表立って、バカだから、アホやからなどと言っているのを耳にしなくなった気がします。

兄弟からも聞いたことないし、友達から聞いた記憶もないし、自分の息子達から聞いた覚えもない。男の人にしろ、女の人にしろ、若い人にしろ、同輩にしろ、年上の人にしろ、とんと聞かなくなって久しい気がします。

更に、そういえば、親が言っているのを聞いたこともありませんね。

でも、そんな自分が「うち、あほやから」と言うのを聞いて、ホッとしたり、可愛いと思ったりするのは、やはり無意識のうちに、いつしか再び、自分が高下駄履いた暮らしをしているからかもしれません。

それで、そんな人に出会うと「あ、この人、高下駄履いていない。それを素直に言えている」と安心し、背伸びをする必要がなくなって、丁度「北風と太陽」の太陽を浴びたみたいに、自然と自分の方から、たとえ一時ではあっても、風にはぎ取られまいと背中を丸めて抱え込

んでいたコートを脱ぎ捨てて「武装解除」したい気持ちになるからかもしれません。  
でも、だからといって、決して別にその人が、バカだと結論づけている訳ではなくて、なん  
だかいじらしくなってしまうのは本当です。それこそお世辞でも慰めでもなく、素直に  
「そんなことはないと思いますよ」  
と言ってしまえるのです。こういう人とは男のひとでも女のひとでも、仲良くしたいと思  
えるのです。

「うち、あほやねん。あたま、ようないねん」  
特に女性の関西弁と相まうと、本当にいじらしくなるくらいかわいらしく感じます。たとえ、  
幾分しわがれ声のばあさんでも。ほんまに。